

「2021 年度 名桜大学入学前特別講座Ⅰ」報告書

2022 年 2 月 14 日から 17 日までの 4 日間、学生会館 SAKURAUM において「2021 年度 名桜大学入学前特別講座」を実施いたしました。本講座は、2022 年度総合型選抜入試や推薦入試等で合格した北部地区 7 校の高校生 49 名を対象としました。「入学前特別講座Ⅰ」は、①入学後の目標を明確にすること、②大学の学びへスムーズに移行できるように準備することを目的として、「本学への入学予定者同士及び先輩学生との交流会」、「大学授業体験」「数学診断テスト」等の内容で 2 月 14 日（月）に行いました。引き続き行われた「入学前特別講座Ⅱ」は、③入学前準備学習（基礎力養成）を目的として 15 日から 17 日まで「統計学基礎講座、英会話ワークショップ、ライティング講座」の内容で行いました。諸事情によりすべてのプログラムには対面では参加できない生徒もいましたが、オンライン（Teams）を活用し、49 名全員が講座に参加することができました。

今年度は特に、昨年度の実態を踏まえ入学後の目標を明確にすることを目指して取り組みました。4 日間の講座で、入学後は卒業までの自分の成長を視野に入れながら、新しいことに積極的に挑戦し、主体的に学びに向かう力、目標達成に向けて学び続ける力を身に付けるために努力することなどを、それぞれが主体的に考える機会となったようです。「入学前特別講座Ⅰ」の交流会や授業体験、各講座等の実施後の自己評価結果が、表 1 に示したようにすべての項目について上昇しており、当初の目的は概ね達成できたと思われます。

表 1 目標達成の自己評価結果

	開始時	1 日目 終了時	2 日目 終了時	3 日目 終了時	4 日目 終了時
①大学生活での目標を明確にすること	3.67	4.25	4.24	4.40	4.64
②卒業後の目標を明確にすること	3.53	3.82	3.83	4.20	4.32
③高校と大学の違いを理解すること	3.53	4.59	4.52	4.73	4.84
④名桜大学の特色を理解すること	3.88	4.34	4.33	4.70	4.75
⑤自らの学習課題を理解すること	3.69	4.16	4.33	4.45	4.61
⑥高校までの学習を復習すること	2.92	3.45	3.95	4.10	4.41
⑦大学で専攻する分野の基礎力を身に付けること	2.94	3.41	3.69	3.80	4.14
⑧入学までの間、学習習慣を維持すること	3.12	3.80	3.95	4.15	4.39

〔※ 引き続き入学後の指導が重要となってきます。〕

◆ 交流会の感想から目的に沿った内容をいくつかを紹介いたします。

目的① 入学後の目標を明確にする

- ・目標を持って学習することが重要だと分かった。
- ・大学のイメージがあまり出来ていませんでしたが、先輩方から色々聞いて具体的にどう頑張りたいという目標を自分の中で立てることが出来ました。
- ・一人一人が目標を明確にしている、それを達成するために頑張っていました。学業、部活、バイトを両立している先輩もいてすごいなと思いました。大学に入ったら先輩みたいに目標を明確にして頑張っていきたいです。
- ・他の高校の人と話したり、レクを通して楽しく大学生の方々と関わったり、楽しみながらこれからの大学生活の見通しや目標を決めることができました。



目的② 大学の学びへスムーズに移行できるように準備する

- ・大学生から話を聞けるので入学前に準備していた方がよいことなど事前に知ることが出来ました。
- ・大学と高校は違う、ということを知ることが出来た。また、勉強すること、楽しむことは大学生活の中ですること、夢実現に近づけると気づいた。先輩方と話したりしてみても大学のイメージが持てたので良かったです。
- ・大学生活での不安を聞く事もでき、大学生活が始まってからのやるべきことも見つけることが出来たと思います。

◆ 大学の体験授業

①「偏見・差別を乗り越えろ！」 授業者 木村堅一（国際学群 教授）

偏見・差別を乗り越えろ！ （社会心理学入門、プラス大学入門）



高校と大学の違い

	高校生活	大学生活
学生生活	与えられた時間割 決めた部活動の時間 先生が司会するイベント 指定された登校時間 制服や持ち物など指定 集団行動 他学年との交流が限定	時間割は自作する 課外活動は制限なし イベントは自主的に 登下校は自由・自己管理 指定制服・髪型なし 個人行動 他学年との交流自由
学 習	幅広い領域・一定の知識 正解があり回答する宿題 先生の講義不可 授業時間は同学年	専門知識の吸収 正解がない課題レポート 授業の選択可 他学年と一緒に学ぶ
社会との関係	青少年の悪い 線や保護者が責任を負う アルバイトの制限	大人として扱われる 行動は自己責任 働く時間の拡大

誰かが世界を
改造してくれる

世界改造計画
をつくるのは自分だ

- ・心理学について知りたかったです。今まで差別や偏見の事を学んできたけれど今までとは違う学びだった！
- ・内集団と外集団のふたつの集団が出来上がれば無意識のうちに差別・偏見をしてしまっていることを知れた。とてもためになる講義だった。例え話とかあってとても分かりやすかった！
- ・講演会に似ていると感じました。とても興味のある内容だったので、楽しかったです。
- ・差別と偏見は人間誰しもが無意識にしていることだとわかった。個人から集団になると一気に立場が変わることも知ることができたので良かった。大学の授業のしかたやイメージができたから良かった。
- ・答えが一つだけでなく内容に沿っての自身の意見を書きあげることが必要だと知った。根拠のものを探すのが思ったよりも難しかったので 4 年間のうちに上手になりたい

②「科学入門 疑似科学」 授業者 立津慶幸（リベラルアーツ機構 上級准教授）

疑似科学



そもそも科学とは？

論理構築。検証を行い、自然現象を理解し一般化をすること。
学問的な価値の「真偽」しか決められない。

一般の人たちの考え方

「役に立つから」（人の価値観）行われているわけではなく、
あくまでも「妥当かどうか」（真理の追求）が判断基準である
科学者の考え方

（科学を学んでいない）一般の人と科学者の間には
温度差は確実に存在する

（もちろん科学者間でも）

- ・占い信じないから関係ないと思ったけど、身の回りは疑似科学が沢山あるなと思った。
- ・偉い人が話しているから正しいとかではなく、根拠は何なのか明確にしようと思った。疑うことは大切だと思う。
- ・高校では習わないことが習えてよかった。面白かった。大学での授業のイメージが持てた
- ・不確かな情報を鵜呑みにするのではなく、正しい情報なのかをちゃんと調べる必要があるということを学ぶことができた。
- ・疑似科学というものを初めて知り、世の中には疑似科学で人を騙す人がいるということを心に留め、大学生になり、自分で色々なことをする時に、簡単に騙されないような気をつけたいと思った。
- ・難しそうな授業だと思ったけど、実際授業に参加してみて、高校で習ったことよりも深いことで、とても興味深かった。
- ・疑似科学は思ったよりも、自分たちの近くにある事に気づき疑似科学の詐欺にあわないように、少し冷静になって考えてみる必要があるとわかった。

◆ 最終日の感想より

- ・入学前特別講座を通して、大学入学前に身につけておきたい学力や入学後の目標を考え直すことができた。
- ・いろいろな学習センターを見て良かった。大学生活を有意義に過ごせるように今からコツコツと勉強を始めていきたい。
- ・最終日の今回、大学生活をより豊かにしようと決意した 1 日だった。

4 日間の振り返りから、充実した学びができ達成感が伝わってくる内容に企画者としての達成感も味わえる講座となりました。

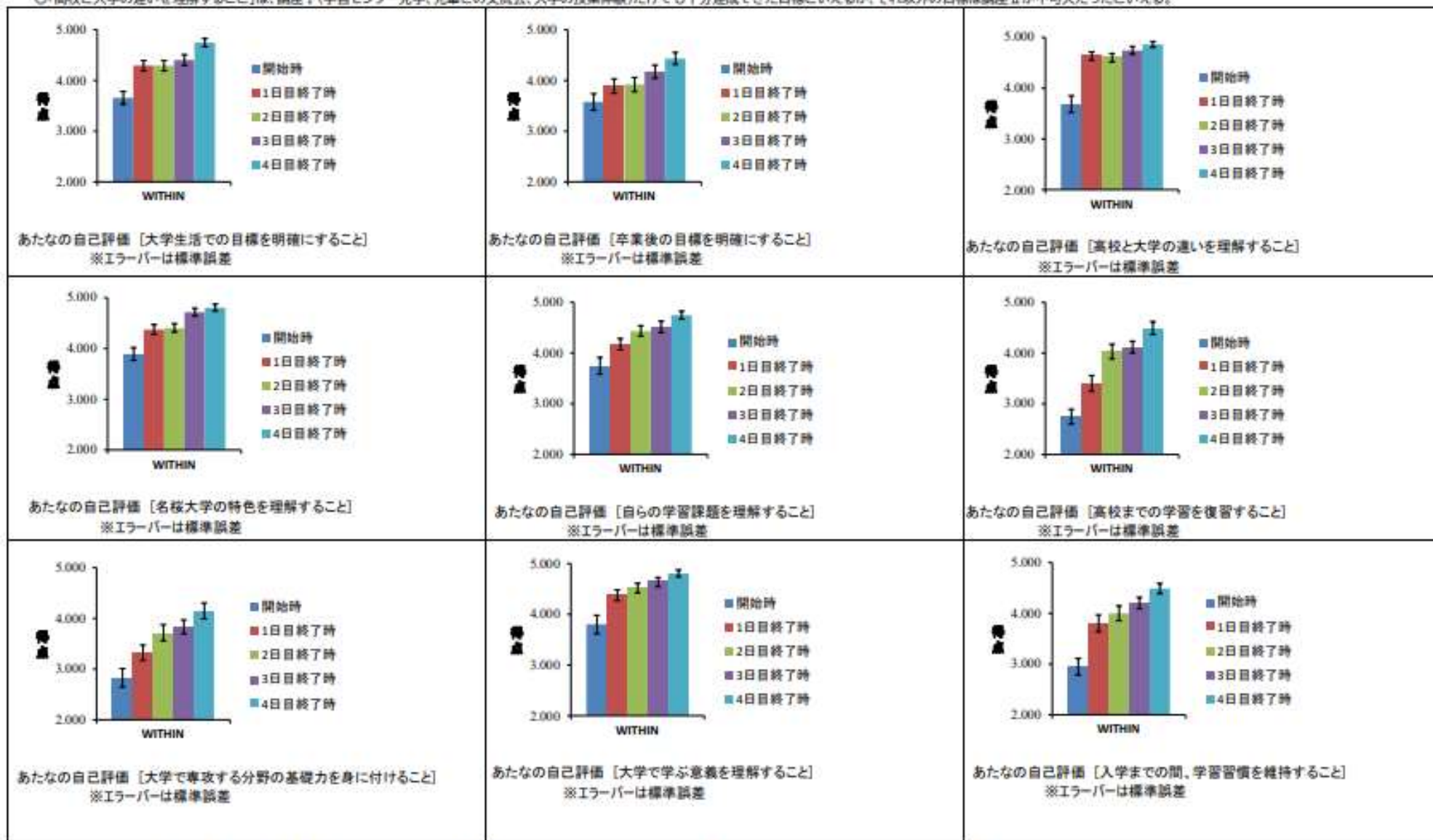
（報告 2022 年 2 月 21 日 リベラルアーツ機構 高安美智子）

2021年度 入学前特別講座Ⅰ・Ⅱ 教育効果の分析結果 n=35(全5回の評価をした受講生のみ分析)

○講座開始時に、受講生にとって「高校までの学習を復習すること」「大学で専攻する分野の基礎力を身に付けること」「入学までの間、学習習慣を維持すること」は、難しい目標と評価されていた。

○しかし、設定した9つの目標全てにおいて、講座開始時より講座終了時の評価が有意に高く、1~5点の範囲で1点以上も改善しており、4日間の講座の教育効果が顕著であったことがわかる。

○「高校と大学の違いを理解すること」は、講座Ⅰ(学習センター見学、先輩との交流会、大学の授業体験)だけでも十分達成できた目標といえるが、それ以外の目標は講座Ⅱが不可欠だったといえる。



注) グラフの縦軸「得点」は、5段階評価の平均値(1=全くできていない, 2=あまりできていない, 3=どちらともいえない, 4=まあできている, 5=かなりできている)である。

分析 2022年2月17日 木村堅一 国際学群教授(学長補佐)